

授業科目名	伴奏実習 I ～VIII	担当形態	実技		
		開講学期	春・秋		
担当教員	実技担当教員	単位	1	年次	1, 2, 3, 4

＝授業のテーマ及び到達目標＝

声楽曲または器楽曲の伴奏を経験し、ピアノ伴奏を通して音楽家としての総合力を身につける。自分の伴奏する楽曲や楽器について学び、音楽的見識を高める。

＝履修の条件と学習の方法＝

ソロ（または重奏・重唱）演奏者と事前に良く話し合い、練習・準備してレッスンに臨むこと。

伴奏する楽曲や楽器の特色について事前に調べておくこと。定期試験実技科目、学内演奏および本学主催の公演などで必要とされる伴奏であること。履修登録の必要は無く、随時単位認定をする。「伴奏実習受講票」を学務課で受け取り、レッスンと本番の際には、そのつど受講票を持参する。なお、本番伴奏時には、試験会場で担当教員および審査員に提出すること。

＝授業の概要＝

＝授業計画＝

（1年次）

- 1期 ソロ演奏者とのアンサンブルをレッスンするという形態をとる。
伴奏の経験を通して、ソロの演奏では学べない音楽的な内容を学んでいく。
- 2期 1期の経験をふまえ、さらに知識深め、技術を向上させ、レパートリーを広げる。

（2年次）

- 3期 1、2期の経験をふまえ、さらに知識を深め、技術を向上させ、レパートリーを広げる。
- 4期 1～3期の経験をふまえ、さらに知識を深め、技術を向上させ、レパートリーを広げる。

（3年次）

- 5期 1～4期の経験をふまえ、さらに知識を深め、技術を向上させ、レパートリーを広げる。
- 6期 1～5期の経験をふまえ、さらに知識を深め、技術を向上させ、レパートリーを広げる。

（4年次）

- 7期 1～6期の経験をふまえ、さらに知識を深め、技術を向上させ、レパートリーを広げる。
- 8期 1～7期の経験をふまえ、さらに知識を深め、技術を向上させ、レパートリーを広げる。

＝テキスト（必携）＝

=参考書・参考資料（必携）=

=成績評価の方法と評価の基準=

伴奏に取り組む意欲と伴奏のための技術とを合わせてソロ楽器の実技担当教員が評価する。

4回以上のレッスンでの伴奏と本番での伴奏を2組行うことで1単位認定する。2組の伴奏実習は複数年度にわたり履修することが可能。

=その他=